

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学研究科

基準 1 理念・目的

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	A
		(3) 学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。	A
		(4) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。	A
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やホームページなど)との記述の齟齬	A
		(2) 教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知 ・社会に対しての公表	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0101 研究科(専攻)の教育研究上の目的[0101a]は教育組織の特色[0101b]に応じて定められており、教育組織の特色を反映したものとなっている。
0101 育成する人間像は、教育研究上の目的[0101a]ならびに研究科の特色[0101b]において明確になっている。
0101 教育研究上の目的[0101a]は大学の基本理念・使命・教育目的[0101c]を前提としており、関連性をもっている。
0102 教育研究上の目的や人間像は学生便覧[0102a]や大学案内[0102b]、研究科ホームページ[0101b]で明示されており、記述は概ね同じ内容を記している。
0102 構成員には既に大学案内[0102b]を配布して周知している。社会に対しては、上記の大学案内や研究科ホーム

ページ[0101b]に加えて、中部大学大学院パンフレット[0102c]でも公表されている。	
0102 2018 年度の自己点検・評価で大学パンフレットやホームページでの記述を検討することを課題にあげた[0102d]。以降、毎年度確認作業を行っているが、議事録に記述するなどの根拠資料の作成をしていなかった。今後、担当者に教授会で報告する機会を設けるなどして、議事録に記載する工夫が必要である。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特になし
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0102	研究科の教育研究上の目的等について、大学パンフレットやホームページでの記述に齟齬がないことを毎年確認しているが、その結果を文書に残すなどの作業をしていなかった。今後、担当者に教授会で報告する機会を設けるなどして、議事録に記載する工夫が必要である。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0102 2018 年度の自己点検・評価で大学パンフレットやホームページでの記述を検討することを課題にあげた[0102d]。以降、毎年度確認作業を行っているが、議事録に記述するなどの根拠資料の作成をしていなかった。今後、担当者に教授会で報告する機会を設けるなどして、議事録に記載する工夫が必要である。	
0102 大学院研究中間報告会では生物機能開発研究所との共催企画として、大学院を修了した OB・OG による講演会を企画している。その時の講演で講師の OB が本学の建学の精神を今でも忘れずに生活していることが述べられ、聴講する後輩たちにも肝に銘じて日々過ごすことを推奨された[0102e]。学部創設以来、建学の精神を踏まえた教育がなされていることの表れであり、また、OB・OG による講演によって、さらに学部学生・大学院生に浸透させることができた。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0102	教授会における大学パンフレットやホームページ記載内容の確認作業報告の実施

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0101	a	中部大学 情報公表 ホーム>学びでみる中部大学>教育研究上の目的 大学院応用生物学専攻 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_graduate_bio/	○
0101	b	中部大学 ホーム>学部・大学院>応用生物学研究科>概要 https://www3.chubu.ac.jp/graduate/biology/about/	○
0101	c	中部大学 情報公表 ホーム>大学概要>基本理念・使命・目的 https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/	○
0102	a	中部大学大学院 学生便覧 2019 p. 61-62	○
0102	b	大学案内 2020 p. 164	○
0102	c	中部大学大学院パンフレット p. 30-33 https://www2.chubu.ac.jp/digibook/graduate_school/html5.html#page=33	○

0102	d	中部大学 情報公表 ホーム>中部大学の評価>中部大学の自己点検・評価>2018 年度 (対象年度: 2017 年度) 自己点検・評価の結果について 自己点検・評価シート 大学院 応用生物学専攻 https://www.chubu.ac.jp/news_documents/public/internal_auditing/2017/self_evaluation/graduate_biology.pdf#page=1	○
0102	e	大学院応用生物学研究科 ホーム>新着情報>大学院応用生物学研究科 2019 年度 第 1 回 研究中間報告会を行いました https://www3.chubu.ac.jp/graduate/biology/news/25294/	○

提出区分 … ○: 本シートと一緒に提出する資料 △: 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学研究科

基準 2 内部質保証

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(4) 外部評価（学内のピアレビュー受審を含む）を自己点検・評価に取り入れていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0203	応用生物学研究科では2017年度の自己点検・評価で当該項目の評価をDとし、改善の必要性を認識していた[0203a]。しかし、2017年度の自己点検・評価からピアレビューという学内外部評価を受けることとなるので、自動的に内部質保証システムが構築されることになることもあり、基準2に関してピアレビューでは特に指摘を受けなかった[0203b]。ゆえに、本学の自己点検・評価のシステムに従う以外に特に改善に着手することはなかった。翌年の2018年度の自己点検評価では基準2が自己点検・評価項目になく、ピアレビューを受ける年度でもなかったため、引き続き基準2に関しては特に改善をしていなかった[0203c]。しかしその後、基準2に関する全学的課題として『学部・研究科等における内部質保証体制の充実』が挙げられたため[0203d]、応用生物学研究科では内部質保証システムを今後継続して有効なものとするために、年間スケジュールを決め、システムティックに運営できる体制を整えた[0203e]。
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0203	研究科内における内部質保証システムを今後継続して有効なものとするために、年間スケジュールを決め、システムティックに運営できる体制を整えた[0203e]。
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0203	研究科内の内部質保証システムにおける年間スケジュールの実践[0203e]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0203	2019 年度、研究科内の内部質保証システムにおける年間スケジュールを設定し、現在はそのスケジュールに従って実践をしている最中である[0203e]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0203	研究科内の内部質保証システムにおける年間スケジュールを実践し、計画に無理がないかを検証する[0203e]。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0203	a	2018 年度応用生物学研究科自己点検・評価シート https://www.chubu.ac.jp/news_documents/public/internal_auditing/2017/self_evaluation/graduate_biology.pdf#page=1 p.3-4	○
0203	b	2018 年度応用生物学研究科ピアレビュー報告書 https://www.chubu.ac.jp/news_documents/public/internal_auditing/2017/peer_review/graduate_biology.pdf#page=1 p.2	○
0203	c	2019 年度応用生物学研究科自己点検・評価シート https://www.chubu.ac.jp/news_documents/public/internal_auditing/2017/self_evaluation/graduate_biology.pdf#page=1	○
0203	d	2019 年度自己点検・評価全学的課題 https://www3.chubu.ac.jp/documents/facts_figures/content/13286/13286_9b197f4b8d22a96d8210bff1f0008900.pdf#page=1	○
0203	e	2019 年度第 11 回応用生物学研究科委員会議事録（抄録）、資料	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 4	教育課程・学習成果（1）
------	--------------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	(1) 課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針（DP）の適切な設定を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・学位授与の方針（DP）の設定	A
0402	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	(1) 学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(2) 学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(3) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針を社会に対し、公表していますか。	A
		(4) 学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）は適切な関連性となっていますか。 ・「学位授与の方針（DP）」⇔「教育課程の編成・実施の方針（CP）」との整合	A
0403	教育課程の編成・実施の方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(1) 教育課程の編成・実施の方針（CP）と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2) 教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ）	A
		(3) 単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。	A
		(4) 個々の授業科目の内容および方法は適していますか。	A
		(5) 授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。	A

0403	教育課程の編成・実施方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(6) 各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(7) 学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0403	教育課程を再編成し、それに伴う授業科目の開設や学習効果の設定は、大学院教務委員会を開催し、提案、審議し、研究科委員会で決定している[0403a]。
0403	大学院教務委員会、研究科委員会の議を経て検証を行い、自己点検を行っている[0403b]。
0403	大学院中間発表会の際に生物機能開発研究所と共催の講演会も行い、大学院生がより多くの教員らから指導を受けられる体制を整備するとともに、学部生が大学院へ進学する意欲をかき立てるものとした[0403c]。
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0403	生物機能開発研究所と共催の年2回の中間発表会の充実[0403c]
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0403	「応用生物学学外研修」における短期留学プログラムの充実
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0403	中間発表会は口頭とポスター発表の両方で執り行っているが、ポスター会場をサイエンスカフェ風に変えることで、より活発な議論場となった[0403c]。
0403	「応用生物学学外研修」において管理栄養士の資格を持つての実習に単位を認定した[0403d]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0403	「応用生物学学外研修」における短期留学プログラムの充実

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出 区分
項目 No.	記号		
0403	a	応用生物学研究科大学院教務委員会議事録（2018 年 12 月 4 日開催）	△
0403	b	応用生物学研究科大学院教務委員会議事録（2019 年 12 月 16 日開催）	△
0403	c	中部大学 ホーム＞学部・大学院＞応用生物学部 ホーム＞新着情報 https://www3.chubu.ac.jp/graduate/biology/news/25294/	○
0403	d	応用生物学研究科大学院教務委員会議事録（2019 年 5 月 7 日開催）	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学研究科

基準 4 教育課程・学習成果（2）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(1) 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。	学部のみ
		(2) シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保	A
		(3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。	B
		(4) 授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・研究指導計画(研究指導の内容および方法、年間スケジュール)を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。	A
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(1) シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	A
		(2) 既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・規程等に基づく単位認定のプロセス	A
		(3) 成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	B

0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(4) 卒業・修了要件を明確に定めていますか。	A
		(5) 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示されていますか。	A
		(6) 学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。	A
		(7) 学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。	A
		(8) 適切な学位授与を行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0404	大学院専攻主任、学部教務委員長、各学科・専攻から各1名他で構成される大学院教務委員会で、シラバスを始めとする教務事項を議論して検証を行い、自己点検を行っている[0404a]。
0405	博士、修士に関する学位授与は年度末の研究科委員会で決議している[0405a]。
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0404	大学院教務委員会を概ね毎月開催している[0404a]。
項目 No.0405	博士、修士に関する学位授与は年度末の研究科委員会で決議している[0405a]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0404	来年度から導入される大学院新教育プログラムへの対策[0405b]
項目 No. 0404	大学院教務委員会規程の整備（至急）

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

＜改善・向上の進捗状況＞

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0405	従来の「修士、博士論文発表会」の名称を「修士、博士論文発表審査会」に変更した[0405c]。

＜今後の改善・向上計画＞

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0404	来年度から導入される大学院新教育プログラムへの対策[0405b]

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出 区分
項目 No.	記号		
0405	a	応用生物学研究科委員会議事録（2020 年 2 月 28 日開催）	○
0405	b	教授会・研究科委員会資料（2019 年 10 月 16 日開催）：新教育プログラムの運用について	○
0405	c	応用生物学研究科大学院教務委員会議事録（2019 年 2 月 13 日開催）	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織

応用生物学研究科

基準 4

教育課程・学習成果（3）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価をしていますか。	(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標	S
		(2) 成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	学部のみ
		(3) 学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	B
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上に取り組んでいますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。

0406 研究科の教員全員が参加して年 2 回研究中間報告会を行うなど、研究科独自の測定方法を利用し、学習成果の評価を行っている [0406a] [0406b]。

0407 過去の活動実績を確認し、次年度に向けた学部等重点事業計画を策定しているが課題がある[0407a]。

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0406	学習成果の測定を目的とした中間発表会の実施[0406a] [0406b]。
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0407	エビデンスに基づく学習成果の点検・評価を研究科全体としては行っていない。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0407	2019年度の自己点検・評価の改善・向上計画において『大学院教育に関する問題点の抽出と対策』をあげた。大学院留学生をより積極的に受け入れるため、秋入学の導入を決定し、2020年度から留学生を受け入れる予定になっていた[0407b]。新型コロナウイルスの感染拡大により結局秋入学の学生は来年度の春に入学することとなったが、秋入学の学生を適切に指導できているかは今後注目してゆかなければならない。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
No. 0407	測定結果に基づいた評価、およびそれに基づく目標設定の実施

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
No.0406	a	中間発表会の評価シート	△
No.0406	b	中間発表会の実施要項 https://www3.chubu.ac.jp/biology/current_students/news/24673/ 同開催報告 https://www3.chubu.ac.jp/biology/current_students/news/24673/	○
No.0407	a	2020年度の学部等重点事業計画について	△
No. 0407	b	応用生物学研究科委員会議事録（2018年6月4日開催）	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	(1) 学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。	A
		(2) 明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とホームページ等の媒体間の記述の統一	A
		(3) 社会に対し公表していますか。	A
		(4) 下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP) の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
0502	入学者受入れの方針(AP) に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	(1) 入学者受入れの方針(AP) と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合	A
		(2) 入学者受入れの方針(AP) に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施の方針(CP) と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置	A
		(3) 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。	A
		(4) 公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(5) 入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A

0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	(1) 入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っていますか。	(1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・学部内委員会等において根拠資料に基づいた定期的な検証	A
		(2) 自己点検・評価結果に基づいた改善・向上を行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0501 大学院入学者受入れの方針(AP)は、毎年研究科委員会において確認されている。学位授与の方針(DP)や教育課程編成・実施の方針(CP)との齟齬についても、同様に確認されている [0501a]。AP、DP、CP は HP で公表されている [0501b]。 0502 入学者選抜における合否判定は、研究科委員会において AP に基づき判定している [0501a]。 0503 大学院生に供与できる実験スペースを考えると、現状での前期課程 24 名、後期課程 6 名という収容定員は適切である。院生スペースの配分は、主任会の常置委員会である学部スペース検討 WG で適切に行なっている。 0504 大学院に関する学生募集活動として大学院進学説明会を行っている。[0504a]企画内容や効果測定については大学院教務委員会で検証している。入試担当者は、研究科長、専攻主任、副学部長、学部長補佐で構成する大学院入試委員会が問題作成者や面接官などを検討している。2017 年度より、中国の学術協定校出身者の受験生を受け入れている。選抜方法は書類選考である。協定校と連絡を取り、可能であれば現地での面接の上、研究科長、専攻主任、副学部長、学部長補佐、事務長他、研究科長指名教員で構成された事前審査委員会により受験の適否を判定し、研究科委員会承認を受けて、6 月入試と併せ実施している。[0504d] その他全般的な学生募集や入試に関する年度の目標は年度最初の大学院教務委員会で議論している。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.0504	2018-19 年度で修了生、計 8 名を講師に招いて「大学院進学へのベネフィット」と題する講演会を計 4 回開催 [0504a]。
項目 No. 504	入学時期・方法の多様化により院生の拡大を図るため、秋入学制度、留学生試験における小論文は従来日本語での回答を求めていたが、英語でも可能とした。[0504c]
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.0503	研究科として大学院生を増加させたいと考えており、それに向けた体制作りが必要である。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0504	この3年間で本学部からの大学院進学者数は、1.5倍以上に増加した。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0502	学術交流大学からの選抜方式を、書類審査のほかに現地面接から遠隔面接に変更する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0501	a	2019 年度大学院学生便覧（抜粋）	○
0501	b	情報公開ホーム>学びでみる中部大学>3つのポリシー 大学院 応用生物学研究科 応用生物学専攻（博士前期・後期課程） https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_graduate_biology/	○
0504	a	大学院進学説明会 https://www3.chubu.ac.jp/biology/news/24980/	○
0504	b	2019 年度第2回大学院中間報告会要項	○
0504	c	研究科委員会議事録（20191016 開催）	○
0504	d	学術交流協定機関特別試験に関する資料	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1) 大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	A
		(2) 教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。（方針等に基づく組織編制の明確化） ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師または助教）の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置（国際性、男女比等も含む） ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(3) 学士課程における教養教育の運営体制を整備していますか。	学部のみ
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1) 教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	A
		(2) 規程等に従った適切な教員人事（募集、採用、昇任等）を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1) FD 活動を組織的に実施していますか。	A
		(2) 点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0602 (1)博士前期課程の定員 48 名ならびに博士後期課程の定員 18 名に対し[0602a]、D マル合教員 40 名、M マル合教員 3 名、M 合教員 1 名が在籍しており、博士課程における教員当たりの学生数は 2 人以下で大学院生の教育と研究指導を実施するのに十分な教員数を確保している。	
0602 (2)外部の研究者に研究内容を紹介してもらう特別講義と知的財産権特論以外の科目は、ほぼ専任教員が担当している[0602b]。上述のように教員の大学院指導資格を明確にしており、資格に応じた学生の配属と学位課程への配置を行っている。D マル合教員 40 名の内、女性は 11 名 (27.5%) を占め、外国人は 2 名である。年齢構成では 65 ～69 歳が突出していることを除けば、概ねバランスが取れている[0602c]。	
0603 (1)昇格については学部の規程[0603a]を適用するが、募集・採用に関する規定はない。募集・採用・昇格等の教員人事は、研究科の発議を人事担当副学長に説明して大学の人事ワーキングに諮って承認を得た後に募集し、候補者を人事担当副学長に説明して大学の人事ワーキングに諮って承認を得た上で、学長らを含む面接を経て採用する手続きとなっている。	
0603 (2)昇任については上記規程に従い、教員人事は全て上記手続きを経て実施している。	
0604 (1)全学 FD 委員会の下に、学部と合同の FD 委員会を設置して組織的に FD 活動を実施している[0604a]。	
0604 (2)FD 活動評価点検は学部と合同の FD 活動ワーキンググループが実施して研究科 FD 委員会が承認し、報告書を全学 FD 委員会に提出している。前年度の評価点検に基づいた年度重点目標を設定して全学 FD 委員会に提出している。[0604a]。	
0605 (1)教員組織の適切性については定年を含む退職等にもなう教員人事の機会に検討しているが、根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価は実施していない。	
0605 (2)目標設定をした組織的な改善・向上には至っていない。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特になし
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0605	教員組織の適切性について定期的な自己点検・評価を実施する体制の確立。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0605 2019 年度の自己点検・評価において、研究科教員の組織を充実することを<今後の改善・向上計画>に挙げた[0605a]。十分な業績をもって新たに着任となった教員の資格審査を行い、教員の定年退職に伴い手薄になった大学院教育体制を補うことができた[0605b][0605c]。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0603	募集・採用に関する学部内での規定・手続きを検討し、整備する。
0605	教員組織の適切性について定期的な自己点検・評価を実施する体制を確立し、適切性を評価できる根拠資料を整備する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0602	a	情報公表 ホーム＞データでみる中部大学 [2019 年度] ＞在籍者数 https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/2019/1-02.pdf#page=1	○
0602	b	大学院科目担当 2019. pdf	○
0602	c	大学院資格合教員年齢構成 2019. pdf	○
0603	a	昇任規程	△
0604	a	2018 年度 FD 活動評価点検報告書 1 ページ 4～5 ページ https://www3.chubu.ac.jp/documents/university_education/content/3321/3321_f54168cff912799d706e14a87d36dc66.pdf	○
0605	a	中部大学 情報公表 ホーム ＞ 中部大学の評価 ＞ 中部大学の自己点検・評価 ＞ 2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価の結果について 応用生物学研究科 自己点検・評価シート https://www2.chubu.ac.jp/news_documents/faculty_staff/internal_auditing/2018/inside/graduate_biology.pdf#page=1	○
0605	b	応用生物学研究科委員会議事録（2019 年 4 月 17 日開催）	△
0605	c	応用生物学研究科委員会議事録（2019 年 7 月 17 日開催）	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学研究科
--------	----------

基準 7	学生支援
------	------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己 評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2) 学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応	A
		(4) 学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み ・生活支援面において、方針の目的（安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等）の支援	A
		(5) 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施	A
		(6) インターンシップは十分に実施していますか。	B
		(8) 学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのよう（基準）」自己点検していますか。	
0702	応用生物科学研究科は大学院生を増やして研究力を向上し、学部および研究科のブランド力向上を目指している[0702a]。この方針は大学開学 50 周年の夢構想で公表され、以降、応用生物科学研究科はその方針に則って運営している[0702b]。ゆえに大学院生への支援をできるだけ手厚くするため、生物機能開発研究所に協力頂き、大学院生特別研究補佐員の制度を活用し、大学院生に研究費を配分することを継続している[0702c]。
0702	大学が推進している後継者育成事業も活用し、2019 年度 1 名の博士を輩出した[0702d]。
0702	大学院においては研究室での研究活動が主となるが、まれに学生と指導教授とのコミュニケーションが取れなくなることがあり、休学や退学するケースがある。それらを防ぐため、大学院教務委員会では委員会開催時に自らの研究室だけでなく、周辺の研究室も含めて学生の状況を話し合うことを実施するようにした[0702e]。
0702	大学院生の数を増やすため、大学院で学んだことがどのように社会で役立つかをイメージできるようにする必要があると考え、年に 2 回の大学院中間報告会に併せて、大学院を修了して社会で活躍する OB・OG に話して頂く講演会を開催するようにした[0702f]。
0702	大学院生に対してより魅力的な企業への就職実績を確保することは非常に重要であるため、キャリア支援課が企画したチャレンジ就活に大学院生も参加できるよう働きかけ、希望者には就活指導をして頂けるようにした[0702g]。
0702	国内外を問わず広く活躍できる人材を育成するため、短期留学プログラムの更なる充実を検討している[0702h]。
0702	大学院生が落ち着いてデスクワークに集中できる環境を創出するために、指導教授や実験室が位置する建物内に大学院生室を整備した[0702i]。
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0702	生物機能開発研究所大学院生特別研究補佐員の制度を活用し、大学院生に研究費を配分した[0702c]。
項目 No. 0702	後継者育成事業を利用した学生が順調に学位を取得した[0702d]。
項目 No. 0702	学生間および学生-教員間でのトラブルなどに速やかに対応できるよう、大学院教務委員会開催時には研究科内の状況を話し合い、情報共有をするようにした[0702e]。
項目 No. 0702	年に 2 回の大学院中間報告会に併せて、大学院を修了して社会で活躍する OB・OG に講演をして頂き、学部生に対して進学意欲を高めさせるとともに、大学院生に対して大学院で学んだことがどのように社会で役立つかなどの助言を頂いた[0702f]。
項目 No. 0702	キャリア支援課が企画したチャレンジ就活に大学院生も参加できるよう働きかけ、希望者には就活指導をして頂けるようにした[0702g]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0702	退学者ゼロを目指したきめ細かい学生支援体制の構築[0702e]
項目 No. 0702	進学意欲が高まるような魅力的な就職先の開拓と実績の蓄積[0702g]
項目 No. 0702	短期留学プログラムの更なる充実[0702h]
項目 No. 0702	大学院生のためのスペースの確保[0702i]

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0702	2018 年度の自己点検・評価におけるピアレビュー報告書では、留意点として『短期留学プログラムのさらなる推進がのぞまれる。【B】』という指摘を頂いた。それを受け、マレーシアのマレーシア科学大学（USM）やベトナムのフエ農林大学への短期留学プログラムの構築を進めている[0702h]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0702	短期留学プログラムの更なる充実[0702h]

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出 区分
項目 No.	記 号		
0702	a	教授会資料（2019年7月17日開催）p. 19	○
0702	b	夢構想ロードマップ https://www3.chubu.ac.jp/documents/biology/news/7426/7426_95c5b32608ae3e4de11910fe4926acb1.pdf	○
0702	c	生物機能開発研究所紀要 No. 19 大学院生特別研究補佐員・研究成果報告 https://elib.bliss.chubu.ac.jp/webopac/bdyview.do?bodyid=XC19000074&elmid=Body&fname=F01_019_110.pdf&loginflg=on	○
0702	d	研究科議事録（抄）（2019年6月19日開催）（2020年2月28日開催）	○
0702	e	大学院教務委員会議事録（2019年8月29日開催）	△
0702	f	大学院応用生物学研究科 ホーム>新着情報>大学院応用生物学研究科 2019年度 第2回 研究中間報告会を行いました https://www3.chubu.ac.jp/graduate/biology/news/25948/	○
0702	g	応用生物化学科会議議事録（2019年10月15日開催）	△
0702	h	応用生物学部 ホーム>新着情報>ベトナム国フエ農林大学学長来学 https://www3.chubu.ac.jp/biology/news/24817/	○
0702	i	研究科議事録（抄）（2020年2月19日開催）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学研究科

基準 8 教育研究等環境

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	B
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	A
		(2)自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0802 学部・研究科の研究活動推進にかかる教育研究等環境整備については、教育課程の特徴、学生数、教育方法に対応する学部等重点計画[0802a]策定にあたり、大学院教務委員会、共通機器委員会、学生実験委員会、先端教育環境整備充実事業運営委員会等と協議し、中期予算計画[0802b]により、年次ごとに具体的な整備計画を立案している[0802c][0802d][0802e]。修了院生や退職教員による空きスペースなど学部管轄エリアの有効活用を推進するため、主任会の常置委員会として設置された学部スペース検討WG[0806a]により、スペース利用状況を調査し、活用プランを立案している[0802e]。	
0806 上記計画は主任会[0806b]・教授会に諮り計画の適切性を検証し、自己点検を行っている。	
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0802	学生院生共用研究機器室の整備を進めた[0802c]。
項目 No. 0802	食品プラントに官能検査室を整備した[0802d]。
項目 No. 0802	36 号館に共同研究室を整備した[0802e]。
項目 No. 0802	大学院生室のスペースを拡大した[0802e]。
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0802	11, 33 号館における大学院生室の整備・充実[0802e]
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0802	応用生物学研究科では学部・研究科の教育力・研究力の向上のためには、大学院の充実が不可欠との見解に立ち、学部等重点計画[0802a]により、様々な取り組みをしてきた。その成果として、ここ数年大学院生の数は確実に増加傾向にあるが、反面スペースが手狭になり、大学院生室が指導教授の居室や実験室とはかなり離れたところに配置せざるを得なくなるなど、非常に指導効率の悪い状況が常態化していた。今回、学部スペース検討WGが院生の人数と指導教授の居室の場所を調査したところ、大学院生が着実に増加しているのは、指導教授の居室や実験室が大学院生室の比較的近くに整備されているところであり、指導教授と大学院生室が異なる建物に配置されているところでは、大学院生数が殆ど増えていないという調査結果がまとまり、学部長・研究科長に報告し、本部に新たなスペース要求を依頼するとともに、余剰スペースの新たな視点での活用を提案した。新たなスペースの要求は叶えられなかったが、（１）実験室と居室を一体化したスペースを、36号館に学部として整備、（２）退職教員の居室を大学院生室に転用によって、30号館院生室の増加、33号館および11号館院生室の新設に加え、日本酒・ワインプロジェクトの研究推進を図るという計画は主任会・教授会・研究科委員会承認された[0802e]。 ただし現状では、大学院生室の配置にまだ偏りがあり、適切に配置できていると言い難い。今後、教員の退職、転出を考慮に入れながら、先を見越して配置を考え、また、大学にスペースの創出を願い続けてゆく必要があると考えている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0806	指導教員の近くに大学院生室が配置できる計画の策定
0806	大学に対するスペースの創出の願い出

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0802	a	学部等重点事業計画（2018、2019）	△
0802	b	中期予算計画調査票（2018、2019）	△
0802	c	応用生物学部・研究科主任会議事録（2020年2月12日開催）	△
0802	d	教授会議事録（2020年1月15日開催）	△
0802	e	教授会議事録（2020年2月19日開催）	△
0806	a	教授会議事録（2019年10月16日開催）	△
0806	b	応用生物学部先端教育環境整備充実事業運営委員会規程	△
0806	c	主任会運営申し合わせ	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学研究科

基準 9 社会連携・社会貢献

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2) 社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
		(3) 地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
応用生物学研究科では、愛知県農業総合試験場と協定を締結しており、名古屋大学、名城大学と持ち回りで年一回の愛知県農学系4機関による研究交流会を開催し、大学院生に発表させている[0902a]。 応用生物学部では、国外の多くの大学と学部間学術協定を締結しており、運営は研究科が中心となっていて行っている。対象年度では、ベトナム フェ農林大学（2018～）と学部間学術協定を締結した[0902b]。一方、中国の学術協定校からの博士前期課程への受け入れは2018年度から始まり、その年は1名、翌年は4名入学している。また、チュロンコン大学との交流会を開催した。 科学技術振興機構主催の「さくらサイエンスプラン」に採択され、2018年度はマレーシア科学大学から10名、同済浙江学院から10名、宜賓学院から8名、嘉興学院から9名、紹興文理学院から8名、インドハイデラバード大学から1名、2019年度は嘉興学院から9名と宜賓学院から8名の学生および教員を招待し、本学側は教員だけでなく大学院生が対応に参加した[0902c]。 ただ、これら取り組みを客観的に評価し、改善することはできていない。	
長所・特色 < 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0902	県内4機関で年一回、愛知県農学系4機関による研究交流会を開催し、発表させている[0902a]。
項目 No. 0902	積極的に海外大学と研究等の交流を行い、グローバル化と友好関係強化、科学技術発展に寄与している[0902b][0902c]。
課題事項 < 箇条書き > * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.0902	活動を客観的に評価し、PDCA サイクルを回す。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、

第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 ＊成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0902	それぞれの活動についてできる限り各研究室のホームページなどで公表し、外部からの意見を求めた。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0902	研究科教務委員会の中で各取り組みの客観的評価を行う。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0902	a	応用生物学部教授会資料（2019/10/16）	△
0902	b	学術協定書写し（学部事務室）	△
0902	c	応用生物学部 HP https://www3.chubu.ac.jp/biology/news/24908/	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学研究科

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 研究科委員会は規程に基づき、議長の承認を受けて開催通知し、議事録は事務局で作成し議長の決裁を経て本部へ提出している。[1120a] [1120c] [1120d]。議事はあらかじめ同規程に位置づけられた主任会において、申し合わせ [1120b] に基づき事前協議を行っている。教員資格審査、教務事項、入試選抜、奨学金選考などの個別事項は主任会及び主任会が設置する専門委員会及び主任会が承認する委員会で協議し、研究科員会で承認する。	
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	議事資料は投影により紙の節減を図っている。またあらかじめ構成員にメール送付し、ダウンロードしたPC等を持ち込み、議場において手元で確認することができる[1120a]。
項目 No.	
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	上記主任会が承認する委員会の運営規定整備が課題である[1120b]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	大学院入試委員会を設置し、規程を整備した[1120e]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	主任会が承認する委員会の運営規定整備[1120d]。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学大学院応用生物学研究科委員会規程	○
1120	b	応用生物学部・研究科主任会申し合わせ	○
1120	c	研究科委員会議事録	△
1120	d	決裁文書	△
1120	e	大学院入試委員会規程	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学研究科

基準 特 学長重点項目

1. 自己点検・評価結果 < 評価 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
特 02	修士課程・博士前期課程、博士後期課程の入学定員、収容定員を適切に管理していますか。	(1) 大学院進学を視野に入れた学部卒業生の状況を把握・分析し、共有していますか。	A
		(2) 大学院の入学定員を確保するための具体的な方策、改善の取り組みを行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
特 02 (1) 学部生の大学院進学の志望は、学部3年生の秋に配属された研究室ごとに把握しており、一部で共有しているが、組織としては大学院進学説明会の参加者と科目等履修生の申請で明確に把握して分析し、教授会・研究科委員会で報告して共有している [特 02a]。 特 02 (2) 父母との集いでは専門分野への就職に大学院進学が極めて重要であることを説明し、大学院進学説明会においては大学院での充実した研究生生活と TA・RA 制度による生活支援、専門分野への就職への有利などを説明して大学院進学の志望を後押ししている [特 02b]。また、中間報告会を含む修士論文の発表会に学部3/4年生の参加を促し、大学院進学を志すきっかけを与えるようにしている [特 02c]。更に中間報告会では当大学院を修了して活躍している社会人による講演会を開催し、大学院進学の志望を後押ししている。生活支援も大学院進学志望を支える大きな柱であり、TA・RA 制度の積極的活用を指導教員に促している。また、生物機能開発研究所の支援制度では選抜された学生に研究補佐を担当させて謝金を提供しているが、彼らのモチベーションアップに大きく貢献している [特 02d]。また、学部生に大学院の講義を先取り受講させる大学院科目等履修生の制度が大学院進学を志望する動機付けに効果があることから、対象者の枠を成績上位20%に拡大して実施しているが、更に拡大することを計画している [特 02e]。一方、留学生の入学者については、中華人民共和国の協定校からの特別入試を実施している [特 02f]。博士後期課程の入学定員の確保には、前期課程修了予定者の勧誘や共同研究先企業からの社会人入学の勧誘を実施している。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 特 02	博士前期課程においては概ね定員を確保する成果を上げており、最近では定員を上回る傾向が出ている。 [特 02g]
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 特 02	本来、大学院生の実験スペース確保されていないため、教員スペースや共通スペースを流用してやり繰りしてきたが、大学院生が増えて限界を超えている。実験スペースの不足が大学院進学加を抑

	制する懸念が出てきた[特 02g]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
特 02	修士中間報告会では当大学院を修了して活躍中の社会人による講演会を開催し、学生のモチベーション上げることができた[特 02c]。また、JST のさくらサイエンスプログラムの活用によるマレーシア科学大学の学部生の招聘を検討した[特 02h]。2018 年度に実施して良い感触があったので、連携を深めて当研究科への入学者に繋げたいと考えている。博士後期課程に進学する可能性が高いので、博士後期課程の定員充足に効果を期待している。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
特 02	大学院生が増え、実験スペースの不足が大学院進学加を抑制する懸念が出てきた[特 02g]。大学院生の実験スペース確保されていないため、教員スペースや共通スペースを流用してやり繰りしてきたが、限界に達している。大学院生の実験スペースの確保が緊急の課題である。
特 02	JST のさくらサイエンスプログラムの活用[特 02i]

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
特 02	a	2019 年度大学院進学説明会資料 p. 5	○
特 02	b	2019 年度大学院進学説明会資料 p. 13	○
特 02	c	大学院応用生物学研究科 ホーム > 新着情報 > 大学院応用生物学研究科 2019 年度第 2 回 研究中間報告会を行いました https://www3.chubu.ac.jp/graduate/biology/news/25948/	○
特 02	d	2019 年度大学院進学説明会資料 p. 20	○
特 02	e	研究科委員会資料（2019 年 10 月 16 日開催） p. 4	△
特 02	f	研究科委員会資料（2019 年 6 月 10 日開催）	△
特 02	g	大学院入学者推移.pdf	○
特 02	h	研究科委員会資料（2020 年 2 月 19 日開催）	△
特 02	i	大学院応用生物学研究科 ホーム > 新着情報 > JST さくらサイエンスに採択され、マレーシア科学大学の学生と教員を応用生物学部に招へいしました https://www3.chubu.ac.jp/biology/news/24908/	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管